

# ふくよか

2022冬号

■長崎県病院企業団本部  
■令和4年1月発行



令和3年度新規採用職員研修にて

## 目次 CONTENTS

P2…企業長より

令和4年 年頭所感

P3…へき地医療貢献者表彰

P4…特集① 第43回長崎県地域医療研究会

今年度は中止となりました

P5…特集② 令和3年度上半期医業収益の状況

P6…特集③ 令和3年度新規採用職員研修

P8…Break Time

日本酒の「き」



# 令和4年 年頭所感

寅



企業長

米倉 正大

あけましておめでとうございます。

COVID-19も発生から2年が経ち、2回目の新年を迎えました。昨年を振り返ってみますと、企業団の各病院は、一般医療のほかにコロナ感染症患者の入院、発熱外来、ワクチン接種と4つの仕事を同時にやらなければならず、大変な毎日を通り越されたことと思いません。幸い病院内クラスターが発生することもなく、この危機を乗り切ることができました。これは、皆さんの不断の頑張り、院長をトップに病院全体が一丸となつて対処されたところが大きかったのではないのでしょうか。住民の方々に信頼される地域の病院としての役割を、見事に果たされたのではないかと思います。ご苦労様でした。

日本は昨年の第3波に始まり、5月に第4波、8月にはこれまでで最大の第5波に襲われました。第5波では、東京や大阪で感染爆発により病床がひっ迫しましたし、長崎県でも8月の1か月で感染者は1,833名となり、いくつかの病院で病床のひっ迫が見られました。しかし9月には664名と減少過程に入り、ま

た軽症患者さんが多くなり、病床のひっ迫度は軽減されました。この間に、企業団には299名の患者さん(五島中央病院95名、島原病院88名、壱岐病院63名、対馬病院36名、上五島病院14名、精神医療センター3名)が入院され、このうち重症患者さん7名は、ヘリコプターや船で本土に運ばれ、事なきを得ました。また、企業団病院間での応援体制がうまく機能して、一時的に困っている病院への応援もスムーズに行われました。これこそ、病院企業団の一体化を表す顕著な姿だと感激しました。

このほか、D-IMATやCOVERMATのシステムを利用して、県内だけでなく、沖縄県への派遣も積極的に行うことができました。応援に行かれた看護師・診療看護師さんをはじめ検査技師の方々に感謝したいと思います。

11月には感染者が激減した一方で、ヨーロッパでは相変わらず感染拡大が続いており、ロックダウンする国もありました。ワクチン効果に加えて日本人の勤勉な予防対策が効果を発揮しているであろうといわれていますが、い

ずれにしても、日本でここまで感染者の発生が抑えられているのは、不思議な感じがします。しかし、11月末からはオミクロン株という新種株が流行の兆しを見せ始めましたし、これからも新しい株に悩まされることになりそうです。withコロナの社会になっていくことを覚悟しつつ、第6波が来ないことを祈るばかりです。

さて、病院企業団の今年の課題について述べてみたいと思います。各離島では、依然として、人口減少に伴う入院患者数の減少が続いています。コロナ対策で感染症病床とした病院では、それが落ち着いても、その空床を埋めるほどの入院患者数は見込めない状況です。果たして、コロナ収束後に一般医療の患者数が元に戻るのか。もう少し様子を見たいと思っておりますが、各病院の病床再編が必要になつてく



るかもしれませんが。その時は、各病院は勇気をもつて積極的に対処してほしいと思います。

さらに次の課題は人材確保と育成です。離島の病院では看護師や薬剤師をはじめ、多くの職種で人材が不足気味です。これは、人口の減少とともに、さらに大きな問題になると予測されます。人材不足の特効薬はありません。修学資金制度の見直しなど、長期を見据えた対処を考えなければなりません。また育成システムも、一昨年から副院長会議において各職種のキャリアアップシステムを見直しているところです。ぜひ、副院長を通して、忌憚のないご意見をいただければと思います。

最後に、上五島病院や上対馬病院、それに精神医療センターは、ここ数年のうちに建て替えの必要性が出てきます。すでに上五島病院の建て替えについては、昨年の暮れに新上五島町議会において、その必要性が認められ、早急に準備を整えているところです。人口減少の激しい離島での病院建て替えには、難しい問題が立ちはだかっています。将来に禍根を残すことがないように、計画していきたいと思っています。

この新年の巻頭言を皆さんが読まれるころには、医療従事者の3回目のワクチン接種が終わり、withコロナの世界で、皆さんが以前のように活躍されていることを祈っています。



## へき地医療 貢献者表彰

いちのみや くにのり  
上五島病院の 一宮 邦訓 副院長が、へき地等の地域における医療確保に長年貢献された医師として、へき地医療貢献者表彰を受賞されました。  
誠におめでとうございます。



## 第43回長崎県地域医療研究会について

10月2日、3日に開催される予定だった第43回長崎県地域医療研究会ですが、新型コロナウイルス感染症の感染を防ぐため、長崎ブリックホールでの開催を断念し、紙上開催とすることといたしました。

2年ぶりの現地開催を楽しみにされていた皆様には大変申し訳ございませんが、ご理解、ご了承のほど、よろしくお願いいたします。

### 今年度のメインテーマについて

今年度のメインテーマは、「コロナ禍から考える地域医療のあり方」です。

「医療資源・医療人材に限られる中で新型コロナウイルス感染症にどのように対応したのか。また、そこで起こった課題をどのように解決したのか」など、未曾有の事態に対応したこの1年半の取組・体験を、将来世代への教訓として残そうと考えたものです。

ご協力を賜りました皆様に厚く御礼申し上げます。

### ○抄録集掲載予定演題数

所属	医師部門	コメディカル・事務部門	看護部門	シンポジウム	計
精神医療センター			1		1
島原病院		2			2
五島中央病院			1	1	2
奈留医療センター		1			1
富江病院			1		1
上五島病院			1	1	2
対馬病院	1		1		2
上対馬病院		1	1		2
壱岐病院		1		1	2
川棚医療センター		1		1	2
計	1	6	6	4	17

### ○抄録集の配布時期について

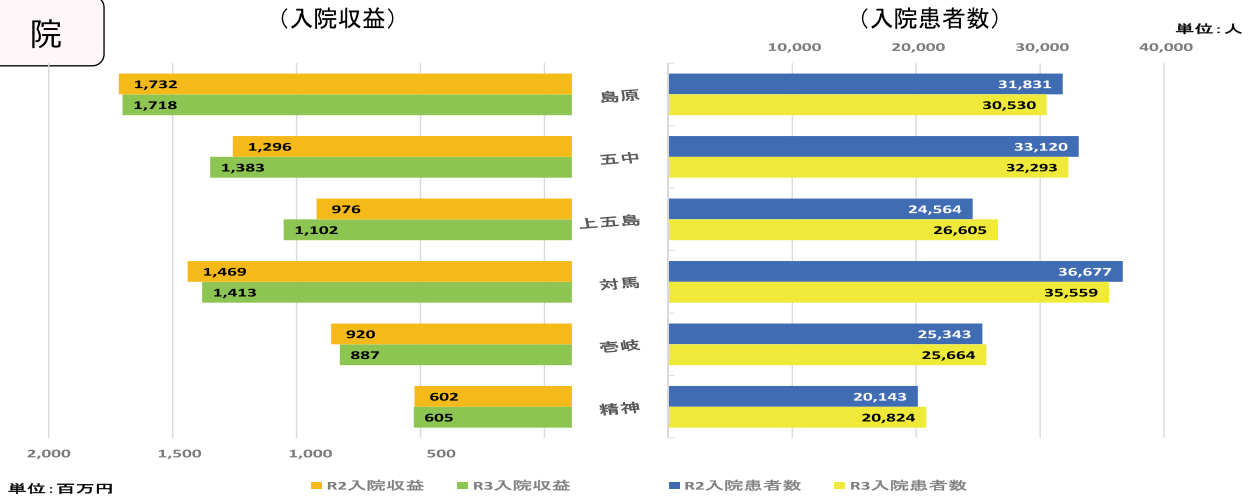
幹事病院である対馬病院にて鋭意製作中です。1月中旬に各病院へ郵送いたします。また、企業団ホームページにおいても掲載する予定です。



# 令和3年度上半期医業収益の状況 (基幹病院)

医業収益の大半を占める入院・外来収益の令和3年度上半期の状況は以下のとおりです。

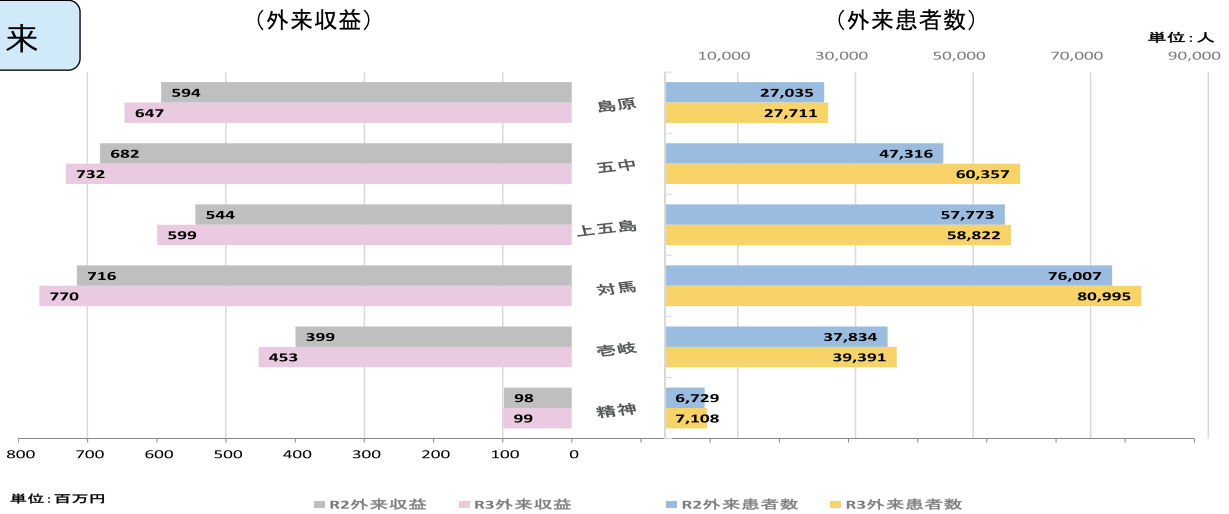
## 入院



令和3年度上半期の入院患者数は、基幹病院では、上五島病院などで増加したものの、企業団全体では昨年度上半期と比較し、**ほぼ横ばい(203人(△0.1%)の減少)**となりました。収益は基幹病院では、五島中央病院や上五島病院などで増加し、企業団全体で昨年度上半期と比較し**約1億1,200万円(+1.6%)の増加**となりました。

## POINT

## 外来



令和3年度上半期の外来患者数は、昨年度上半期と比較し、企業団全体で**+21,690人(+8.6%)の増加**と大きく回復しました。収益も企業団全体で昨年度上半期と比較し、**約2億6,600万円(+8.8%)の増加**となり、こちらも大きく回復しました。

## POINT

### \*今後の見込み\*

その他医業収益を含めた、病院企業団全体の医業収益は昨年度上半期と比較し、**約5億5,000万円(+4.8%)の増加**となりました。医業収益としては、外来患者数や、新型コロナウイルス感染症関連の検査が増加したことにより、新型コロナウイルス感染症流行前の令和元年度並まで回復しました。今後、新型コロナウイルス感染症の動向に注視しつつも、安定した患者確保のため、引き続きよりよい病院づくりを進めていく必要があると考えます。





# 令和3年度 新規採用職員研修

R3.12.2~R3.12.3

今年度の「新規採用職員研修」は、コロナ禍の中、開催が危ぶまれる状況でしたが、48名の参加者を迎えることができました。勤務調整等にご配慮いただきました幹部の皆様にお礼申し上げます。（高口看護指導監）

精神医療センター専門看護師 村島 正俊先生

### ストレスに負けない3つのR



- Rest (休養):**  
オンとオフを切り替える
- Refresh (気晴らし):**  
五感をフルに使う
- Relax (くつろぐ):**  
ゆったりとした時間を持つ

出典: <http://www.koum-kango.jp/webselection/stress/pages/measure/r3.html>



### 3 社会人として守るべきこと

- ①初対面の方にも、安心感と信頼を持ってもらう。  
—あいさつ・身だしなみ・接遇
- ②患者さんに優しく接する。
- ③チーム医療の一員としての自覚を持つ。
- ④時間管理を徹底する。報告、連絡、相談を確実に。  
—始業時間、会議開始時間の遵守（10分前には…）

副企業長も一緒に  
はい！ポーズ





長崎ベイサイド・ウォークラリー  
チームでone shot!  
in  
ドラゴンプロムナード 展望デッキ

Aチーム



Bチーム



Cチーム



Eチーム



Fチーム



Gチーム



Dチーム



長崎県病院企業団のチームの一員として一体化意識の向上を図り、円滑なコミュニケーションで親睦が深まりました！





# Break Time



## ～ 日本酒の「き」～

さむ～い冬を迎え、日本酒がおいしく呑める季節となりました。そういうことで、今回は、日本酒を題材にしたいと思います。日本酒といっても、いろいろな銘柄があり、品評会的なお話するのではなく、日本酒についての基本中の基本について、私なりに理解していることをお話したいと思います。

「純米大吟醸酒」とか「特別本醸造酒」といった言葉を耳にすると、銘柄はともかく、おいしい日本酒というイメージが沸きますが、実は日本酒には、原料の違いで大きく2つに分けられます。それは米と米麴だけで作った「純米酒」と米と米麴と醸造アルコールで作った「本醸造酒」です。ちなみに、米麴とは蒸した米にコウジカビを種付けし、発酵させたもので、醸造アルコールとは化学薬品ではなく、サトウキビやトウモロコシなどを原料としたアルコールのことです。一般的に、「純米酒」は、米本来のうまみやコクのある味わいが楽しめ、「本醸造酒」は醸造アルコールを添加するため、スッキリとまろやかなものが多いと言われています。

次に、「吟醸酒」や「大吟醸酒」は、精米歩合の違いによるものです。精米歩合とは、白米÷玄米で表され、玄米の外側の脂質やタンパク質といった雑味成分を削る（業界では「磨く」と言います。）ことで、おいしいお酒に仕上がります。ちなみに、精米歩合60%以下とは、40%以上のお米を削ったもので吟醸酒と呼ばれています。大吟醸酒は精米歩合50%以下のものを呼ばれています。このほか、特別な製造方法で作られた日本酒に「特別」と付けることがあります。

以上、簡単に説明しましたが、例えば、「純米大吟醸酒」は米と米麴で作られ精米歩合が50%以下の日本酒、「特別本醸造」は米と米麴と醸造アルコールで作られ特別な製造方法による日本酒とすることができます。

日本酒の好みは、純米酒がいいとか、大吟醸がいいとか、あるいはこの銘柄の日本酒しか呑まないとか、人それぞれあると思いますが、私は大衆酒を熱燗したものが大好きです。熱いお酒の香りが鼻から抜けるところが堪りません。

十数年前のことですが、矢野名誉顧問（当時は病院事業管理者でした。）から「どういう酒が好きか？」と尋ねられ、「熱燗です。」と即答したら、「本当の酒呑みだ！」と言われました。

最近では、健康のことを考え、日本酒を呑むのは正月三が日のみで、もっぱら芋焼酎で晩酌しています。

（文：副企業長 上田彰二）



## 編集後記

あけましておめでとうございます。

今年の干支の寅は『決断力と才知』を意味するのだそうです。仕事では優柔不断に決断を先延ばしにせず、プライベートでは断捨離をして家も心もすっきりできる年にしていきたいです。



ふくよか

～「ふくよか」の由来～  
医療人として患者さんに寄り添った会話が自然と出てくるような能力をつけてほしいとの企業長からの願いが込められています。

令和4年1月発行  
編集・発行／長崎県病院企業団本部  
〒850-0035 長崎市元船町17-1 長崎県大波止ビル7階  
TEL.095-825-2255 FAX.095-828-4759  
E-mail : honbu@nagasaki-hosp-agency.or.jp  
URL : <http://www.nagasaki-hosp-agency.or.jp/>  
上記メールアドレスに記事についてのご意見・ご感想を  
どんどんお寄せください！



長崎県病院企業団

検索